

戦争によって 未来が奪われないように

私は、国民学校高等科2年（現在の中学2年生）を卒業したら、家政女学校に行くつもりでした。しかし、兄が戦死したため家の事情で、家にいることになりました。そうしていると16歳の時に召集令状が来て、女子挺身隊として旧東洋紡績株式会社富田工場に1年間ほど行きました。



須川 ナルミさん（92歳） 終戦時17歳

めましました。ある日、鵜殿駅から少し離れた日本通運の事務所に帰っていると、大きな音とともに米軍のグラマン機が真上を飛んでおり、さらにその上にB29の飛行機雲が見えたので飛んでいくことはわかりました。すると、グラマン機の機銃掃射とB29の爆弾がいきなり襲ってきて、近くの防空壕へ急いで避難しました。

防空壕に入った途端に、パンパンと大きな音が数回鳴り、とても恐ろしく、もう駄目だと思ったことを覚えていてます。その後攻撃が終わり防空壕から出ると鵜殿駅から現在の主婦の店までの間は爆弾で大きな穴が空いていました。

戦争は一人ひとりが行きたいところに行けなく、働きたいところも選べないなど大勢の未来が奪われます。戦争は絶対にしてはいけません。戦争の記憶を風化させることなく、今の平和がこれからもずっと続くことを願っています。

今がどれだけ平和で 恵まれているか感じてほしい

私には戦時中、特に忘れられない2つの出来事があります。

1つ目は、空襲等も多くなってきたころ、ドカンと大きな音が聞こえたので何かと思っていたら、魚雷が上がったとのことでした。実際に浜へ走ってみると、梶鼻に不発の魚雷が上がつており、すぐ近くに戦争が迫ってきていることを感じ、とても怖かったです。

2つ目は、昭和20年7月28日、私は国鉄の車掌をしていました。乗務していると阿田和のあたりで、米軍のグラマン機が列車の真上を飛んでいたかと思うと、列車めがけてバリバリという音とともに機銃掃射を行っていました。

私は、乗客に「退避してください」と声をかけ、列車から離れ、近くの竹やぶへ飛び込みました。間一髪、機銃掃射から身を隠すことができ、竹やぶから上を見るとグラマン機の機上に乗っていた飛行士の顔が見えました。機銃掃射を受けた時には生きた心地がしないほど恐ろしかったです。



滝川 隆士さん（92歳） 終戦時17歳

当時は混合列車（客車と貨車を併結する列車）で運行しており、攻撃を受けた列車は燃え上がり、乗客はお腹を撃たれてうなっている人、足が吹き飛んでいる人、助けてと叫ぶ人などさまざまで、阿鼻叫喚の様相を呈していました。あの光景は今でも忘れられません。

戦争を知らない人に伝えたいことは、戦争はお互いに損にしかならず、惨めで愚かなものです。二度と戦争の惨禍をもたらしてはいけません、そう思います。

みなさんは戦争について考えたことはありませんか。どこか自分には関係のないもの、遠い過去の出来事だと思っ
てはいませんか。
戦争の記憶は、時が経つとともに薄
れていっています。しかし、その記憶
はあなたの近くにも眠っているかもしれ
ません。その記憶から学び、そして

次の世代に語り継ぐことが私たちの役
目ではないでしょうか。
現在の平和は、多くの尊い犠牲の上
にあることを私たちは再度知る必要が
あります。
戦後75年を迎える今年、一度立ち止
まって平和とは何か、戦争とは何か考
えてみませんか。

参考文献

- 紀宝町（2004）『紀宝町誌』
- 鵜殿村（1994）『鵜殿村史 通史編』
- 鵜殿村（1994）『鵜殿村史 史料編』
- 鵜殿村（1984）『鵜殿村九十年史』